

# CAMA試験合格者の声



文=荒井 美紀 一般社団法人日本アセットマネジメント協会 事務局  
text by Miki ARAI

## 1. はじめに

私はCAMA試験を7年前の2018年6月に受験しました。

「JAAMの事務局員として、理解しておいたほうがいい。お客様と話がうまく通じるようになる。」と受験をすすめられました。

当時、私はISOの審査認証機関に勤めながらJAAMの事務局員をしていました。審査認証機関に入社以来JIS Q 9001には触れてきたものの、受験時には新しい事業の温室効果ガス排出量取引制度検証業務を担当し、東京都と埼玉県の検証主任者として工場やビルの温室効果ガス排出量検証に従事していました。ですから、JIS Q 9001から長いこと離れていました。

CAMA試験は2時間110問？それって1問何分ですか？焦りから、CAMA試験合格者に「そもそも1問1分弱で回答することは可能なの？問題文を読むだけで精一杯なのでは？」と質問攻めにしました。CAMA試験は、4択とはいえ問題文が少々長いとも聞いていたのです。これは無理だ！と言いつつも、試験に向けての勉強

が始まりました。

さて、どう勉強しようか・・・2時間110問・・・私にとって久しぶりの試験になります。そもそも2時間も私は集中し続けることができるのだろうか。不安は募るばかりでした。

## 2. 私にとってのアセットマネジメントとは

主にJIS Q 55001の規格要求事項やガイドラインのJIS Q 55002を教材としました。グレーのJIS本を開いて溜息。やはり、翻訳調の文章の理解に手こずりました。今までのように、さらっと読み進めるわけにはいきません。試験のために、一つ一つ理解しようと丁寧に読んで頭に入ってきません。JIS Q 55001の主語はほとんど「組織」です。JIS Q 55001は、企業などの組織が認証を得るために満足しなければならないことが書いてありますが、私にはピンときません。自分に落とし込むことが難しいと感じていたところ、周りからアセットマネジメントの「組織」は、「個人」でもよいのだとアドバイスを受けました。

### ISO 55000:2014 (用語の定義)

#### 3.1.13 組織 (organization)

自らの目標を達成するため、責任、権限及び相互関係を伴う独自の機能をもつ、個人又は人々の集まり  
注釈1 組織という概念には、法人か否か、公的か私的かを問わず、……………

「組織」を「私」に置き換えてみました。私にとってのアセットマネジメントを考えてみました。

例えば「家電」をアセットとしてみる。そうすると「我が家の家電」の充実を図るための「家電購入の活動」が私のアセットマネジメントとなります。私は家電を購入する時、徹底的に調べてから購入します。この行為は、ISO 55001の箇条4.1「組織及びその状況の理解」となります。それは何故かという、家電製品の多くは使ってみて返品することができないからです。使い勝手が悪い、操作が難しい、何だか思っていたのと違った。そんな理由で「やっぱり返します！」とはできないからです。まず口コミサイトを確認し、購入を検討している家電の評判をチェックします。他製品との比較サイトなども確認し、メー

カーや性能をチェックします。そして実際に使用している人が書いたブログも探してチェックします。

**4.1 組織及びその状況の理解**

組織は、組織の目的に関連し、かつ、そのアセットマネジメントシステムの意図した成果を達成する組織の能力に影響を与える、外部及び内部の課題を決定しなければならない。

そして、私がマーケティングして選んだ家電製品は本当に必要なものなのかを改めて確認します。この行為を簡条 4.2（ステークホルダーのニーズと期待の理解）にあてはめてみます。家電製品の購入に関する重要なステークホルダーは「家族」です。家族のニーズを聞き取りします。使いやすさは、デザインは、色は、同じ製品でも家族のニーズは結構様々で、合意形成をしながら、最終的に購入する家電製品を決定します。

**4.2 ステークホルダーのニーズ及び期待の理解**

組織は、次の事項を決定しなければならない。

- － アセットマネジメントシステムに関連するステークホルダー
- － それらの、ステークホルダーのアセットマネジメントに関するニーズ及び期待

次は、家電製品の使い方のルールを決めなくてはなりません。そこで役立つのが「簡条 6.1 のリスク及び機会への取組です」。家電製品の取扱説明書を読み、正しい使い方を理解し、なお、どのような使い方をするとどのようなリスクが発生するかを特定します。

**6.1 リスク及び機会への取組**

**6.1.1 一般**

アセットマネジメントシステムの計画を策定するとき、組織は、4.1 に規定する課題及び 4.2 に規定する要求事項を考慮し、次の事項のために取り組む必要があるリスク及び機会を決定しなければならない。

特定されたリスクを防止するための注意事項を整理して、その内容を家族に周知するのが、簡条 6.2.2 の k) の取組なのだと言点がいけます。

**6.2.2 アセットマネジメントの目標を達成するための計画策定**

k) 次の事項のためのプロセスを確立することによる、アセットの管理に伴うリスク及び機会への取組。その際、これらのリスク及び機会が経時的にどのように変化し得るかを考慮しなければならない。

- － リスク及び機会の特定
- － リスク及び機会のアセスメント
- － アセットマネジメントの目標を達成することにおけるアセットの重要性の決定
- － リスク及び機会に対する適切な対応、及び監視の実施

このような、日常的な家庭での活動を ISO 55001 の要求事項と照らし合わせていくと、アセットマネジメントが「自分事」になり、業務にそして組織の活動に拡張して理解することができるようになりました。

**3. はじめてのオンライン試験**

当時は、受験者は会場に集合しての試験でした。会場にはパソコンがずらりと並んでいました。試験が難しい上に、初めてのオンラ

イン試験。もう半分諦めていました。

試験官からは、「もし試験中にパソコンに不具合があれば、試験の経過時間も自動的にストップします。」と案内がありました。気になっていたことだったので安心しました。

開始の合図とともに試験はスタート。第1問目の問題が表示され、試験の残り時間も画面に表示されています。画面上で時間配分がし易いことが分かり、少し気持ちが落ち着きました。しかし2時間110問！気持ちばかり焦り、急いで問題を読み解答していきました。解き進めていく中で、この問題は後でもう一度見直したい、解答に自信がないというときには、その問題にマークを付けることができるようになっていました。画面上には、マークを付けた問題の番号が一覧で表示されます。ショートカットでいつでもその問題に戻れるようになっていましたが、気づけば画面はマークだらけ。まだ最後まで問題を終えていないのに、マークをした問題の数々を見直す時間はあるのか……。

無我夢中の2時間は、あっという間でした。問題を見直している途中で、画面が切り替わり、「お疲れさまでした。」と試験終了を案内する文章が表示されました。そしてよく読むと「おめでとうございます！」と書いてありました。ああ、私は合格したのです。

**4. 試験を振り返って**

「本当に？」、「私がCAMA試験に？」大丈夫だろうか。合格したらしたでまた不安になりました。今思えば、そこまで焦って問題を

解く必要はありませんでした。問題の見直しの時間は結構あったので、もう少し落ち着いて挑むべきであったと反省しています。

こうした体験を通じ、ISO 55001 の読み解きが進み、日々の業務の対象のアセットが何で、アセットマネジメントをする中に潜むリスクを考え、目的達成のための計画を立て、実行をする。得られた成果（結果）を自分なりに評価し、改善点を見つけ、次の活動に活かしていくという PDCA サイクルが回せるようになったのではないかと思います。

## 5. JAAM の資格試験を受験する方へ

CAMA 試験、JCAM 試験は現在オンライン試験となり、自宅や職場から気軽に受験していただけるようになりました。事前対策講習会もオンライン開催のため、実際に受験者の方々とお会いする機会はありませんが、事前対策講習会の画面から受験者の皆さんの緊張感を感じながら、事務局運営をしております。本来の業務の傍ら、資格取得のための試験勉強を行う

ことは容易ではありません。JAAM 事務局として精一杯サポートしてまいりますので、お困りごとがございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。

あらい みき / ISO 審査認証機関の株式会社マネジメントシステム評価センター (MSA) に入社。新規事業の立上げや、温室効果ガス排出量取引制度に従事し、一般社団法人日本アセットマネジメント協会 (JAAM) の設立から事務局としても活動する。

2022年MSA退職後、正式にJAAMの事務局員として、セミナーの運営や資格取得のサポートを行う。